キャラクター名
美尾

プレイヤー名

メインクラス	シーフ	**Lv.1:**		**レベル**	4
サポートクラス	ダンサー	**Lv.1:**	ニンジャ	**性別**	♀
称号クラス				**年齢**	16
種族	ヴァーナ			**境遇**	傷病
出自（効果）	放浪者			**目標**	探索

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	10	12	22	6	15	6	9
ボーナス	3	4	7	2	5	2	3
クラス修正	0	1	2	0	1	1	1
他修正							
能力値	3	5	9	2	6	3	4

HP	50
MP	45
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	キャリバー	10m	0	7	0	0	0	0	0
左手	ラウンドシールド		0	0	0	3	0	-1	0
頭部	ドミノ					2			
胴部	踊り子の衣装				1	1			
補助	ソリッドブーツ					3			
装身具									
能力値			5	0	9	0	3	15	8
スキル	バタフライダンス								
その他									
総計(右)			5	7	10	9	3	14	8 m
総計(左)			5	0					
総計(両)									
ダイス数			2 d	2 d	3 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 2 d
トラップ解除	5			5	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定	3			3	+ d
錬金術判定	5			5	+ d

所持品	
ベルトポーチ	
バックパック	
冒険者セット	
ポーションホルダー	
HPポーション×2	
MPポーション×2	
毒消し	

現在重量： 5		
最大重量： 17	所持金： 2143	預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
アクロバット	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 猫族、作成時に敏捷基本値に+3								
ワイドアタック	1	4	メジャー	武器	範囲(選択)	命中		
効果： 武器攻撃を行う。命中判定の達成値に+SL								
バタフライダンス	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 回避+1D								
スティール	1	3	ＤＲ直後	-	自身	自動判定	攻撃	
効果： ドロップとは別にドロップ判定								
ディスアピア	★	3	マイナー	-	自身	自動成功	非ｴﾝｹﾞｰｼﾞ	
効果： 隠密状態になる								
ランナップ	★	3	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	-	自身	自動成功	封鎖	
効果： 戦闘移動orｴﾝｹﾞｰｼﾞ離脱								
コンシールアタック	2	3	パッシブ	-	自身	-	隠密	
効果： 命中判定+1Ｄ　ﾀﾞﾒｰｼﾞ+SL Ｄ								
パフォーマンス	★	-	-	-	自身	-	ﾌﾟﾘﾌﾟﾚｲ	
効果： 敏捷×100Gを獲る								
ダークステップ	1	4	メジャー	-	自身	自動成功		
効果： 回避+SL×2								
スタントフライング	1	3	マイナー	-	自身	自動成功		
効果： 付与：飛行　移動力+SL×5m								
インサイト	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： はったりや嘘の精神判定+1D								
ファインドトラップ	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 罠感知+1Ｄ　失敗しても作動しない								
トレーニング：敏捷	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 敏捷基本値+3								
トレーニング：感知	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 感知基本値+3								
効果：								

PC名：美尾
種族：ヴァーナ（狐族）
　　狐族とは第２の粛清前に少数存在していたグループである。遺跡の遺産にもほぼ記録は残っていない。
職業：シーフ
武器：陽光月花（キャリバー）
　陽光：金色のキャリバー、父の形見/月花：銀色のキャリバー、母の形見（共に今は輝きを失い特別な力は感じない）の組み合わさった姿。
　個別に使用する事もできる

両親：放浪者
　世界をめぐりながら旅をしていた

初期習得：バタフライダンス/スティール/コンシールアタック/スタントフライング

簡易メモ
命の恩人の雪風の命令（お願い）には絶対服従（？）
両親を殺された思い出から妖魔を酷く憎む

～prologue～
突然だが旅をしていた美尾とその両親は妖魔に追われていた。持久力には自信のあるヴァーナ族であってもしつこい追跡と土地勘の無さが徐々に余裕を奪ってゆく。深い森の中、母が足を取られ転倒する。父は美尾をみてこう言った
「次の村へ先に逃げて助けを呼んできてくれないか」
と言うと母の元に駆け寄り足元に転がっていた木の枝で妖魔を追い払おうと試みた。美尾は一瞬両親へ駆け寄ろうと考えたが父の頼みを思い出すと必死で村に走